

幕別高校の存続を危惧する 間口減少対策と今後の見通しについて



問 道教委は、2008年度から新たな「高校教育に関する指針」に基づき大幅な再編を行う計画を示した。

一学年三学級以下が原則再編、同二学級以下は統廃合の対象となり、三間口以下となる幕別高校も当然該当する。

幕別高校は帯広圏内に位置する高校として町内はもとより、周辺市町村からの通学生も多く、教育の町を自称するに相応しく期待されてきた。それがここ数年応募者が激減し、定員を大幅に割る事態となり、関係機関は勿論住民をも憂慮させている。これは単なる少子化による社会現象と捉えるべきか一考を要すると思うが、この事態に地元自治体として「わが町の高校」を取り巻く地域環境の整備が重要と考えるが、今後の対策と見通しを伺う。

町長 幕別高校は、本年は2次募集後に63人の入学者が確定し、2学級となり、「わが町の高校」としての町民の意識の高揚を図り、高校を取り巻く地域環境の整備が重要な課題である。

町としても、広報紙を通して、幕別高校の様々な活動の様子の周知や、町内の中学校教職員と幕別高校教職員との交流などに取り組み、今後も、地域に開かれた学校づくり、魅力ある学

校づくりに対する支援を検討したい。

道教委からは、地元中学生が地元の高校へ進学する実態が再編の判断材料の一つとなることから、町内中学校と幕別高校との連携も重要な要素である。

道教委は年内にも平成20年度から22年度までの配置計画を示すことから、機会あることに要請活動を実施致したい。

超高齢社会の到来と 「高齢者憲章」制定について

今、幕別町の高齢化率も全国(20%)を上回る21・4%となり、高齢社会が確実に到来している。本町ではこの事態を厳しく捉え、新「幕別町高齢者保健福祉ビジョン2006」が策定され、期待しているところだが、今後の大きく加速化するであろう「団塊の世代」

の高齢期の到来と社会状況の変化にどう対応するかが大きな課題である。

こうした厳しい社会状況において、全ての高齢者が地域の中で希望を持ち、心豊かに安心して年齢を重ね、全ての住民と共に「人生の最後まで個人の人格の尊厳を全うできる社会基盤の創



幕別高校

造」こそが重要であり、このことをより確かなものとして行くためにも「幕別町高齢者憲章」の制定が必要と考えるが、所見を伺う。

町長

平成18年度から平成20年度までの3か年計画となる「幕別町高齢者保健福祉ビジョン2006」を策定するにあたり、「高齢者憲章」とその具体的施策5項目について、計画に反映させた。本計画は、4つ

の柱を基本目標とし、「安心して生活することのできる地域社会の創造」、「健康やかに楽しく生活することのできる地域社会の創造」、「互いに認め合い、支えあつて生活することのできる地域社会の創造」、「尊厳を持ち自立して生活することのできる地域社会の創造」4つの基本目標とこれを支える各種施策の実行により、本町における高齢者福祉の充実に目指したい。

「幕別町高齢者憲章」の制定は、検討した結果、平成11年の国際高齢者年において国連が提唱した、「高齢者の自立・自己実現・社会参加・ケア・尊厳」の高齢者に関する5原則の精神については、「幕別町高齢者保健福祉ビジョン2006」に反映できているものと考え、この計画に掲げた目標の実現に向け、各種施策の遂行に努力し、町民のみなさんに周知を図ること、高齢者の方々に対する配慮がなされるものと考えていることから、憲章の制定は、現在のところ考えていない。